童

2016 年 1 月２９日.

やはり雪景色は最高です。待って待って待っていた分だけ、嬉しさ、美しさは格別です。やっと待望の季節の移り変わりを感じているこの頃。まさに風物詩がやってきた 1 月下旬でした。

待ちかねたご褒美のように、過去最高の森のそりコースが出来上がり、ほぼ毎日、ここをソリやスキーで滑り降りています。この不安定な天候ですので、「今しかない！！」という貪欲な思いで、午前も午後も遊んでいる日もあります。毎日エキサイティングな声が森に響いています。

ｸﾛｶﾝも、バックカントリーと呼称を替えてよいと思われるほど、年長児は、畑、雄飛君宅、お墓、そして天神さん、天神さんの階段などとこちらはスリリングなスキーで盛り上がっています。皆、雪に飢えた白熊（水に飢えた魚ではなく）のように、雪を満喫しています。

更に、今週は、４日間も雪の上でお昼を食べました。この季節に雪の上でこんなに外でお弁当を食べることができるのも不思議です。降った分だけ、3 月のように雪解けも進んでいます。

そんな不安を打ち消すように、今ある雪で、思い切り毎日雪三昧の暮らしをしたいと思います。アルペンもクロカンもスノーシューもﾊﾞｯｸｶﾝﾄﾘｰもスケートも雪山登山も、今しかできない！！　この季節、このチャンスを逃さずにこの季節を満喫しましょう。

【暖かい服】

1 月 17 日朝 6 時半。厳しい寒さの中、地域のどんど焼き準備のため、近所の人たち３０名位が、田んぼに集まりました。半分以上は、60 代から 70 代後半の人達。山へ入り、木を切り倒し、運び、持ち寄ったわらやかやを巻いて、道祖神を 2 体作る作業です。見ると、全員長靴そして手袋は軍手。ズボンは、作業ズボンに、上着は、〇〇ＪＡや△△建設などの支給もののジャンバー類。誰も、最新鋭の防寒グッズを着ていません。長靴をとってみても、ウレタン入りではなく、ゴム一枚の普通の長靴だからすごい。そして、明るくタバコなどを吸いながら、張り切ってやっています。そして、その動きの機敏さ、そしてキレのあること。その作る技術や手際は、やはり熟練者です。かっこいい一コマでした。

　そんなハイカラな防寒着は、肩が凝るし、もわもわして動きずらいし、この長靴じゃなくちゃ、足が重たくてだめだなどと、40 代ぐらいの若者の服装を見て、説教がらみしているのがおもしろいです。しわが刻まれた顔、ごつごつした手、やはりこの人たちには、最新のゴアテックスや羽毛は、やはり様にならないよなあ、と痛感します。この伝統的などんど焼きは、やはり、こんな人たちの服装も、大きな魅力だとうれしくなりました。

　そう言えば、暖冬、地球温暖化を叫ばれる自分の子供時代。家は高気密高断熱ではなく、冬の暖はコタツのみ。冬の服は、木綿のズボン下のみ。上着は、半纏。これは、室内着で、外では、何を着ていたか記憶にありません。もちろん、ズボンも、夏冬の違いの記憶なし。雪も寒さも今とは比べ物にならないほどの厳しさ。それは、2 月位に、自転車で田んぼの上を乗りまわした位の冷え込みの毎日でした。ほとんど外で遊んでいたのですが、いったい何を着て遊んでいたのか。その頃の写真なんて、子ども達だけで遊んでおり、大人と一緒のことなんかなかったので、ありません。もちろん、スキー場なんてなかったので、スキーウェアも存在しなかったですね。

寒い季節のスポーツといえば、スキーやスケート、サッカーやラグビー。スキーでも、ｱﾙﾍﾟﾝｽｷｰとクロカンスキーでは、全く服装が違います。ｸﾛｶﾝコースが併設されている黒姫スキー場。リフトに乗っている人たちは、完璧なスキーウェアで身を包んでいますが、クロカンの人達は、薄ペラな体の線がはっきりする服装。雄飛のように、ﾊﾞｯｸｶﾝﾄﾘｰに行く人達や雪山登山する人たちの服装も違いますね。雄飛なんて、下着と中間着と上着の 3 枚しか着ていません。あのマッキンリーもそんな感じだったそうです。（テント、野営では違いますが）その上着と言っても、ペラペラ（ゴアテックスですが）の一枚布ですから驚きです。まさに機能性動きやすさ、最優先です。

　サッカーやラグビーも一目瞭然です。プレーヤーは、半ズボンや半ぞで。観客は、フード付のロングコートが定番ですね。観客は、じっとしているので、寒さから身を守ることが必要であり、プレーヤーは、常に動き回るので、薄着があたりまえですね。私達も、春先や秋の野球観戦では、このロングコートは必需品ですが、それ以外の場では、ほとんど出番がありません。やはり、動きずらいし、身体が重いし、下手に転んだら、手足が機敏に出なくて、怪我をしそうなくらい、着ぶくれ状態になるからです。やはり、受け身的にじっとしている時に、最適な服です。

　こう考えてくると、地球温暖化、暖冬に確実になってきているのに、暖かな家、暖かな服装が、どんどん進化していく流れには、驚きですね。子ども達のスキーウェアを見ても、確実にふわふわで太く（？）膨れてきていますね。雄飛の幼稚園時代では、皆ペラペラの、ホームセンターの 2000 円台のワンピースでした。そんなものが主流でした。もちろん長靴もウレタン入りではなく、夏冬兼用。しかもペラペラの方が、お尻滑りなどでは、ダントツの速さでした。遊んだ後は、もちろん下の服までびっしょり。汗と染み透った雪です。そして着替えてすっきり。私達大人も、ソレルの防寒靴なんてものは存在せず、冒頭のどんど焼きの長靴で頑張っていましたね。そんな青ちゃんも、昨年とうとう暖かいブーツを買ってしまいましたが、今年は、調子がいいので、長靴で頑張っていますし、レイヤリングして、機能性を重視しています。どんど焼きの先輩たちを見るにつけ、人間の耐えれる力、細胞や感覚がどんどん変化していくような気がします。それが、やわになると言うのか、それとも、文明の流れに沿って、適応していくのか・・・。野生のイノシシが、家畜化されてきたのが、ブタのように、動物も植物も、その環境により、変化していくのが常ですから。（まだまだ家畜にはならないぞ！！）

　子ども達も雪が降り、大喜びの毎日です。雪の中、転げまわったり、ダイブしたり、お尻滑りしたりして、息をﾊｰﾊｰ弾ませています。クロカンでは、顔を真っ赤にして走り回ります。子どもは常に動き回ります。そんな子ども達に 厚着をさせる事は、動きずらくなり、じっとしているだけ。ここには、子どもはじっとしているので寒さから身を守ってあげねばいう受け身的なメッセージが込められます。

　逆に、薄着では、軽快に動き回り、汗をかいて身体を温めるんだよという願いが込められます。薄着だと、動き回らなくては、暖かくならない。ここに、自主的、意欲的な気持ちがあります。　そして、元気に動き回りなさいというメッセージが込められます。

　生命感覚。「あー、気持ちいいという感覚」。赤ちゃんが、おむつを替えてもらった時の気持ちいい感覚。寒い所から暖かい所へ入った時の気持ちいい感覚。この差が大きければ大きいほど、この感覚は育ちます。「本当に気持ちいい、嬉しい、生きててよかった 」24 時間快適な環境では、この感覚は育たないと思います。常に暖かい足元、寒さを感じない防寒着も、これに似通った感覚ではないでしょうか。濡れたら着替える。着替えて気持ちいい。　メリハリのある季節に応じた暮らし。これが本当のオーガニックな暮らし。　たかが、子どもの服ですが、大人の子どもへのメッセージが込められます。

　どんど焼きの諸先輩たち。ある意味で、オーガニックな暮らし最先端です。